



スクツピーだより

【発行】 調布市子ども発達センター

〒182-0032 調布市西町290-49

TEL/042-486-1190 E-mail/ ayumi@w2.city.chofu.tokyo.jp

令和3年度 夏号

ごあいさつ

新型コロナウイルスの影響がまだ続いており、入館時の検温・体調確認や部屋の人数制限など、ご不便をおかけしていますが、ご協力いただきありがとうございます。日々の生活の中でもいろいろな制約があり、皆様もストレスを感じることもおありかと思えます。お電話でも、ご相談を受付けておりますので、お気軽にご相談いただければと思います。

また、近隣施設で開催された大型イベントの際には、交通規制や駐車場の使用制限など、ご不便をおかけしましたが、ご協力いただきありがとうございました。

これからも皆様からの忌憚のないご意見・ご要望を大切にして、さらにより良いセンターにしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

子ども発達センター長 伊藤聖子

4月は新しいお友だちやクラスにドキドキしていた子どもたちですが、外遊びやお散歩で元気いっぱい走ったり、スライムや片栗粉遊びで不思議な感覚を楽しんだり、毎日笑顔で過ごしています。今年は、じゃがいも掘りにもチャレンジしました。土の中から出てきたお芋に大喜びのお子さん、スコップで土の感触を楽しんでいるお子さん、それぞれ新しい発見があったようです。

今日はどんな遊びをするのかな？子どもたちはいつもキラキラした目で語りかけてくれます。毎日の”遊び”の中で「楽しい！気持ちいい！！」とたくさん感じてもらえるよう、そしてご家族にも心地よい場所と感じていただけるよう、職員一同笑顔で頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

通園事業園長 今宮麗子



令和3年2月スタート 居宅訪問型児童発達支援事業



通所することが難しい重症心身障害をもつお子さんに対して、保育士等がご自宅に訪問して療育を提供する事業です。児童福祉法に位置付けられた制度で、障害者手帳や診断をお持ちのお子さんが対象です。前年度の所得に応じた保護者負担がありますが、3歳児から5歳児までは就学前の障害児の発達支援の無償化により、利用料の負担はありません。



子どもと遊びの関係性



子ども発達センターでは、子どもたちの「遊び」を大事にしています。

「お友だちとうまく遊べない」「自分の好きな遊びしかしない」「コミュニケーションをとることが難しい」など、お子さんの遊びの様子で気になることがあると思います。子どもの成長を促す中心にあるものが「遊び」です。

今回は「遊び」について、子ども発達センターで大切にしていることをご紹介します。

あそびのQ&A

センターのイメージキャラクター、スクッピーがお答えします！



スクッピー



グループの課題は、何で同じようなことを毎回やってるのかな？

はじめてのことは、ドキドキするんだもん・・・



はじめてのことは、緊張したり不安に感じる子が多くいるんだ。だから、センターでは安心して楽しめるように同じ課題を繰り返すグループもあるんだね。

繰り返すことで、手遊びのまねをしようとしたり、「これ、知ってる」「おもしろい」という気持ちが育つよ。



興味のあることに、じっくり取り組むのが好きなんだ！

友達と遊ばないのは、何でだろう？いつも同じ遊びしてるよなあ・・・



一人遊びをじっくり楽しめることは、成長の中で大切なんだよ。オリジナルの遊び方がある子もいるから、『どんな遊び方をしているか』を知るのが大事だよ。大人が子どもの好きな遊びを知って、「楽しいね」「これ、おもしろいね！」と一緒に遊べるといいね。

一緒に遊ぶ中で、子どもが大人とやりとりができるかをみていこう。





遊びには「ねらい」があります

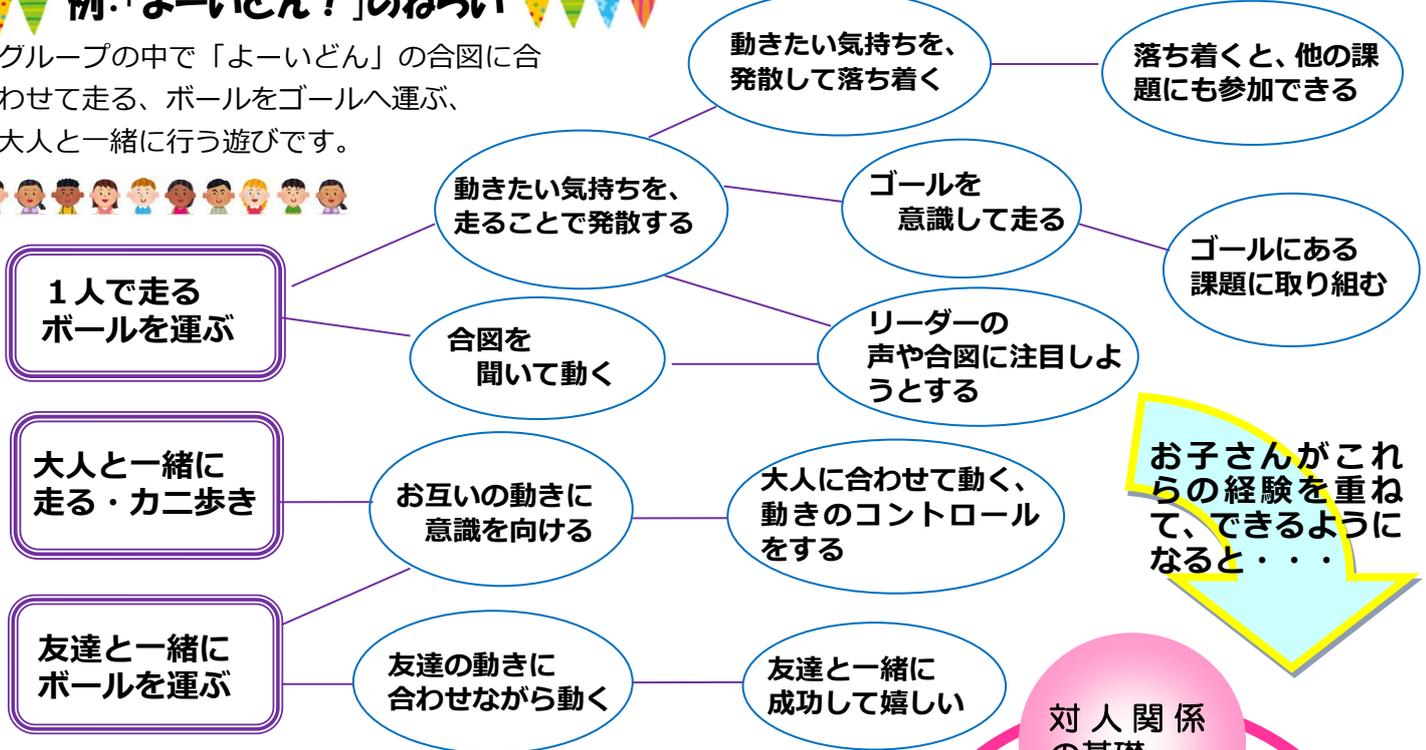


センターでは、お子さんが「楽しい」「おもしろい」と思える遊びをとおして、「もっとやりたい」「できた！」という、意欲や達成感を感じられることを大切にしています。「おもしろい」「楽しい」「もっとやりたい」と思い、お子さんは人や物などに主体的に関わろうとします。関わりが深まることで、遊びの楽しさが増し、興味・関心が高まったところで、再び同じ遊びや課題を行うと、お子さんは安心して経験を積み重ねていきます。

遊びのねらいとは！

例：「よーいどん！」のねらい

グループの中で「よーいどん」の合図に合わせて走る、ボールをゴールへ運ぶ、大人と一緒に遊ぶ遊びです。



「よーいどん！」ひとつでも、上に書いたようにさまざまなねらいがあります。センターのグループや個別療育では、大人の手助けのもと、遊び（課題）を積み重ねることで、「対人関係の基礎」「社会性や学習への意欲」「状況を理解しようとする力」を、育てることを意識しています。

ただ、楽しそうに遊んでいるだけのように見えるかもしれませんが、全ての課題には1つ1つにねらいがあります。



センターの課題の中では、お子さん自身が「できた！」と思えるよう工夫しているんだね。「よーいどん！」も速さを競い合うのではなくて、リーダーの声や合図を待てるか、聞いているか、親子で一緒に同じように動けるかなどのねらいがあるんだね。

お子さん自身が「うまくできた！」と思えた時に、お母さん・お父さんや周りの大人からほめられることで、「自分自身のことを大切に思える気持ち」、「ありのままの自分を受け入れる感情」が育つんだよ。



< 保護者の活動 >



あゆみ父母会

通園児保護者のみんなで活動している会です。親睦会の開催、「あゆみ」行事への参加を通して、子どもたちが安心＆楽しく通園できるように支援しています。また、保護者同士の交流を深め、通園生活における悩みや疑問などをみんなで知恵を出し合っってひとつひとつ解決していきたいと思ひます。

会活動へのご意見やご希望などがありましたら、1階事務室カウンターにある「父母会ポスト」にお願いいたします。

おやじの会

在園児のお父さん方を中心に、発達センターの職員や、卒園児のお父さん方も交え、お酒（飲めない方もいます。）を飲みながら、お父さん同士の交流や、お子さんのことなど気軽に情報交換、相談のできる、アットホームな飲み会を開催しています。（今年度の開催は未定です）

スクッピー友の会

通園「あゆみ」、発達支援部門、卒園児のママからそれぞれ1名ずつが世話人となって活動をしています。

センター利用者対象（現旧問わず）の「おしゃべり会」を年1～2回開催し（予定）、幼稚園・保育園や小学校の情報交換をしたり、子育てや療育の悩みや疑問、愚痴を言ってもOK！センターの利用形態を問わず、就学後まで含めたお母さん同士の交流の場です。

また、個人では言い出しにくいセンターへの意見や要望を取りまとめ、話し合いで回答をもらったり、センターまつりではお子さんの小さくなった衣類などを集めた「リユースコーナー」の出店を予定しています。

詳細はセンターにあるチラシをご覧ください。

NPO 法人調布心身障害児・者親の会

昭和43年、「障害があってもこの子たちを地域で生き生きと育てたい」という想いから、母親16人が集まって設立し、旧あゆみ学園の前身である「あゆみ教室」を作りました。

「木の実（成人）」、「れんげ（肢体不自由）」、「あざみ（中高生）」、「すみれ（小学生）」、「こぐま（未就学児）」のグループがあります。

こぐまグループ

0～6歳（未就学児）で、発達に遅れや偏りのあるお子さん、特別な配慮が必要なお子さんのママたちで作るグループです。

密を避けて、日々の生活や療育、就園・就学に役立つ勉強会や懇談会を年に3、4回実施しています。お忙しい方にもご参加いただけるオンラインでのオープンチャットも年2回予定しており、小中高校生の先輩ママさん方からお話を聞けたり、気軽におしゃべりしていただけます。

みんなのサポートネット

未就学児から成人の方までのあらゆる世代の困り事を、先輩お母さんの体験談や、専門家の方による学習会などを企画するプロジェクトです。

発達に遅れや偏りがあるお子さんをもつママたちが、情報交換をしたり、若いお母さんたちの「お助け隊」となるため、年齢や障害種別を越えて様々な企画をしています。

☆親の会の活動予定☆

令和3年度も制限のある中での活動となりそうですが、会員でない方も参加できる懇談会や勉強会は可能な範囲で開催を予定しています。

昨年度、このような環境の中でできることをと思い、オンラインでの懇談会も試行錯誤しながらですが行なうことができました。会員限定の企画や先輩会員の就園・就学時の体験談をまとめた冊子などもありますので、ご興味のある方は親の会のホームページのお問い合わせフォームへご連絡ください。

<http://chofuoyanokai.com/>

（「調布 親の会」で検索）



一人で悩まないで、一緒に考えていきましょう。